

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○平成 28 年度農業農村工学会大会講演会の参加申込みについて  WEB 事前参加登録 6 月 1 日～7 月 31 日	86
○平成 28 年度農業農村工学会大会講演会（宮城大会）の企業展示および広告掲載申込みについて 申込締切 6 月 30 日	87
○平成 28 年度「研究グループ」への助成希望者募集について 申請締切 6 月 30 日	88
○平成 28 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について 申請締切 9 月 16 日	88
○平成 28 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再） 申請締切 4 月 15 日	89
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	89
○「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」の発行のお知らせ（再）	90
○「水土の知（農業農村工学会誌）」読者の氏名公表とご協力のお礼	90
○「農業農村工学会論文集」査読者の氏名公表とご協力のお礼	91
○平成 28 年度からの論文集冊子体の年間発行回数変更に伴う「投稿の手引き」の改定について（再）	92
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!	92
○平成 29 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	93
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	93
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局について	94
○第 73 回京都支部研究発表会の開催について（第 1 報）  発表申込締切 6 月 30 日	95
○平成 28 年度九州沖縄支部大会の開催について（第 1 報）  開催地：鹿児島市	96
○第 14 回岩の力学国内シンポジウム：JSRM2017 の開催について 応募概要締切 5 月 15 日	96
農業農村工学会論文集内容紹介	97
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	99
受入れ図書	100
文献目録	100
学会記事	102

## 会員のみなさまへ

例年、4 月は転勤・卒業などで多くの会員の方々が異動されます。

引き続き学会誌を正しくお届けするため、学会に登録されている会員データに変更があった方は、ご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、学会誌を職場等で連絡委員を通じてお受取りの方は、連絡委員にその旨、お申し出下さい。

それ以外の学会誌を自宅等で直接お受取りの方は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) の会員について > 個人情報の変更（異動、転居等）をご覧の上、手続きをお願いいたします。

## 第84巻第5号予定

展望：環境効果を考える：水谷正一

小特集：農業土木での環境配慮はなぜだか難しい（仮）

- ▷ 農業農村整備事業における環境配慮はなぜ難しいのか？：田代優秋ほか
- ▷ 福井県における環境配慮工法導入の現状と課題：佐々木繁一ほか
- ▷ なぜ「正しい」環境配慮がうまくいかないのか？：富田涼都ほか
- ▷ オーラルヒストリー手法を用いた農家の農村環境に対する意識の把握：柿野 亘ほか
- ▷ 環境配慮計画を住民の視点から再構築する試み：齊藤光男ほか
- ▷ コンクリート水路において「後から行える」環境配慮策：渡部恵司ほか
- ▷ オーストラリアの農業環境政策と制度設計をめぐる論点：木下幸雄
- ▷ 環境との調和への配慮におけるもう1つの視点：草光紀子ほか
- ▷ サロベツ泥炭地における「緩衝帯」の合意形成：松田俊之ほか
- ▷ 栃木県における生態系配慮型工法の効果検証と手引きづくり：柳澤祥子ほか
- ▷ 都市近郊水田地帯における生態系保全はなぜ難しいのか？：西田一也

## 技術レポート

- 北海道支部：GPS 受信記録機活用による農作業機械の稼働時間計測：赤川豊文ほか
- 東北支部：広域的な地盤沈下を受けた農地の排水対策について：高山伸之介ほか
- 関東支部：地すべり機構の検討事例について：石澤隆之ほか
- 京都支部：ため池一斉点検結果の活用：鈴木克季ほか
- 中国四国支部：西益田大橋の耐震補強工事における仮締切り工法について：齋藤真秀之
- 九州沖縄支部：高鍋川南地区水路トンネル機能保全対策の検討：中澤克彦ほか

小講座：ファシリテーション：唐崎卓也

私のビジョン：田畑俊範

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成28年6月16日	資源循環研究部会	平成28年度研究発表会	水循環・バイオマス利活用に係る研究発表および事例報告	東京都	84巻1号
平成28年8月30日～9月2日	大会運営委員会	平成28年度農業農村工学会大会講演会	—	仙台市	83巻12号 84巻1号
平成28年10月20, 21日(予定)	九州沖縄支部	平成28年度支部大会	—	鹿児島市	84巻5号
平成28年11月16, 17日	京都支部	第73回研究発表会	—	大阪市	84巻5号

## 平成28年度農業農村工学会大会講演会の参加申込みについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成28年度農業農村工学会大会講演会は、平成28年8月30日(火)～9月2日(金)の4日間、ホテル法華クラブ仙台およびハーネル仙台(宮城県仙台市)で開催されます。本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

参加登録(事前登録)は、平成28年6月1日から7月31日までです。

会場設備や発表プログラムの詳細等については本誌7月号(Vol.84/No.7)をご覧ください。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

## 1. 開催要領

(1) 開会式典および学会賞表彰式：

8月30日(火) 13:30～

会場 ホテル法華クラブ仙台

(仙台市青葉区本町 2-11-30)

(2) 交流会：8月30日(火) 18:00～20:00

会場 ホテル法華クラブ仙台1階

「ハーモニーホール」

(3) 講演会：8月30日(火)、31日(水)、9月1日(木)

会場 ホテル法華クラブ仙台

ハーネル仙台(仙台市青葉区本町 2-12-7)

(4) 現地研修会：9月2日(金)

仙台近郊(1コース)

石巻近郊(1コース)

開会式および交流会の開始時間についてはプログラムの都合により多少前後する場合があります。会場の詳細・プログラムとともに本誌7月号に掲載します。

## 2. 申込方法

学会ホームページの大会講演会(<http://www.jsidre.or.jp/outline/zenkokutaiikai/>)からリンクされる参加申込用

サイト(2016年6月1日～7月31日開設)から参加登録(事前登録)をして下さい。8月1日以降は当日登録(8,000円)のみとなります。ホームページによる登録ができず、その他の方法での申込みを希望する場合は、「8.(1)参加申込みに関する問合せ」までご連絡下さい。

3. 参加費用

(1) 大会参加費用と内容

区 分	事前登録(7/31まで)	当日登録
一 般	6,000円	8,000円
学 生	3,000円	5,000円

キャンセルの場合、8月1日以降は50%、8月29日以降は100%のキャンセル料が発生します。

(2) 交流会参加費：一般 7,000円、学生 3,000円

(3) 現地研修会参加費：3,000円(昼食代別)

4. 講演要旨集について

CD-ROM版講演要旨集は参加者全員にお渡しいたします。事前の送付を希望する場合は、ホームページでの参加登録時にお申し込み下さい。ただし、CD-ROM版講演要旨集の事前送付は事前登録期間(7月31日まで)にお申し込みいただいた場合のみの対応となります。

なお、これらの講演要旨集とは別に、プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の200字要旨などを収録した大会概要集を、大会当日受付にて参加者全員にお渡しします。

5. 昼食

昼食やお弁当の予約、手配はいたしません。会場近くの飲食店や県庁の食堂などをご利用下さい。

6. 宿泊施設・航空券などの斡旋

宿泊施設、航空券、鉄道各社の手配については斡旋しません。あらかじめご了承下さい。

7. 会場までの交通案内

ホテル法華クラブ仙台は、仙台駅からは徒歩約10分となっています。

ハーネル仙台は、地下鉄南北線広瀬通駅から徒歩約3分となっています。また、ホテル法華クラブ仙台とハーネル仙台間は徒歩約3分となっています。

詳しくはホテル法華クラブ仙台ホームページ(<https://www.hokke.co.jp/sendai/>)およびハーネル仙台ホームページ(<http://www.heanel.jp/>)を参照下さい。

8. 問合せ先

(1) 参加申込に関する問合せ

(株)近畿日本ツーリスト東北 仙台団体旅行支店  
 平成28年度農業農村工学会大会係(増田、鈴木)  
 〒980-0021 仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル5F  
 TEL:022-222-4141 FAX:022-221-6188  
 E-mail:sendai-dantai@or.knt-th.co.jp  
 営業時間:月～金9:00～17:45  
 (休業日:土、日、祝日)

(2) 大会全般に関する問合せ

平成28年度農業農村工学会大会事務局  
 千葉克己 または 神宮字 寛  
 〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立2-2-1  
 宮城大学食産業学部環境システム学科  
 TEL:022-245-1439(千葉), 1450(神宮字)  
 FAX:022-245-1534  
 E-mail:chibak@myu.ac.jp(千葉)  
 jinguji@myu.ac.jp(神宮字)

9. 大会実行委員会

委員長 郷古雅春  
 宮城大学食産業学部環境システム学科

平成28年度農業農村工学会大会講演会(宮城大会)の企業展示および広告掲載申込みについて

平成28年8月30日(火)、31日(水)、9月1日(木)の3日間、ホテル法華クラブ仙台およびハーネル仙台(仙台市)で開催されます平成28年度農業農村工学会大会講演会において、企業展示を行います。展示を希望される企業は、下記要領によりお申し込み下さい。

1. 企業展示(展示会場)

ハーネル仙台  
 ※具体的な場所や条件はお問い合わせ下さい。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載(B5判モノクロ印刷)  
 ※概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

- ① 広告1ページ 60,000円
- ② 広告1/2ページ 30,000円

- ③ 企業展示(屋内) 80,000円
- ④ 広告1ページ+企業展示(屋内) 120,000円
- ⑤ 広告1/2ページ+企業展示(屋内) 100,000円

4. 申込方法

(1) 申込手順(a→b→c→d)

- a(貴社) 所定の申込用紙(学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)の「事務局からのお知らせ」に掲載)と(2)展示概要(任意様式)を送付(郵送、E-mail等)
- b(事務局) 申込み受付後、貴社へ請求書発送
- c(貴社) 振込み
- d(事務局) 領収書および広告掲載紙を発送(完了)

(2) 展示概要 展示する内容および必要物品等(要電源、机、イス等)、希望事項(屋内スペースで○

○m<sup>2</sup>、屋外スペースで○○m<sup>2</sup>等)等を任意様式で作成・提出して下さい。(基準面積は2.7m×1m(屋内)です。)

(3) 申込期限 平成28年6月30日(木)

(4) 振込先

- ・金融機関：ゆうちょ銀行
- ・店名：八一八
- ・店番：818
- ・預金種目：普通預金
- ・口座番号：3702256

・口座名義：平成28年度農業農村工学会大会講演会実行委員会

(5) 申込み・問合せ先

平成28年度農業農村工学会大会講演会事務局

(尾形・石黒あて)

〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1

宮城県農林水産部農村振興課技術管理班

TEL：022-211-2865(直通) FAX：022-211-2890

E-mail：nosonshing@pref.miyagi.jp

(問合せは、できるだけE-mailでお願いします。)

## 平成28年度「研究グループ」への助成希望者募集について

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、3件以内です。

本年度の申請締切は、平成28年6月30日(木)です。助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会ホームページ参照)で研究委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

### 「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に40歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

## 平成28年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度(原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成28年9月16日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研

究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
  - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
  - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」

は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成28年9月16日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

平成28年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再）

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成28年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む）、または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。
- (2) 平成28年度中（平成28年4月から29年3月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助

する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

4. 申請締切 平成28年4月15日（金）

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階

(公社) 農業農村工学会 学術基金運営委員会

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動

に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)  
 法人会員一口 50,000円(何口でも可)  
 送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。  
 銀行:みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058  
 口座名 (社) 農業農村工学会学術基金  
 郵便振替:00140-2-54031  
 加入者名 農業農村工学会学術基金

### 「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」発行のお知らせ(再)

この度、「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」を発行することとなりましたので、お知らせいたします。

初版の「資格試験のための農業農村工学必携」は、「改訂七版 農業農村工学ハンドブック(平成22年発行)」をコンパクトに再編集したもので、資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして、また、農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものとして発行されました。

今回の第二版は、初版で要所に挿入されていた「確認テスト」を最近の資格試験問題の動向に合わせて増補更新し、「テキスト」と「問題集」の分冊形式としています。是非ともご購入の上、お役立て下さい。

#### 1. 発行書籍

書籍名:資格試験のための農業農村工学必携 第二版  
 編者:公益社団法人 農業農村工学会  
 発行予定:平成28年4月  
 体裁:B5判 約520ページ  
 価格:定価2,777円(税込・送料学会負担)  
 ※会員価格の設定はありません。

#### 2. 購入方法

##### I. 個人、法人の場合(賛助会員を除く)

- ①郵便振替:郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入下さい。  
振替口座番号:00160-8-47993  
加入者:公益社団法人 農業農村工学会
- ②現金書留:書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封下さい。
- ③代金引換:書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

##### II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAXでお送り下さい。

#### 3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
 (公社) 農業農村工学会事務局 図書係  
 TEL:03-3436-3418 FAX:03-3435-8494  
 E-mail:suido@jsidre.or.jp

### 「水土の知(農業農村工学会誌)」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会誌は、昭和4年の学会創立とともに、「農業土木研究」として刊行され、以来、戦中の一時期を除き、多くの方々のご協力により発行を続けてまいりました。

とりわけ、読者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

農業農村工学会誌企画・編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、平成27年4月から平成28年3月までの一年間

に学会誌の内容充実のためにご協力、貢献いただきました方々のお名前(五十音順・敬称略)を記し、ご貢献の証しとさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し上げます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

(平成28年3月1日現在)

粟生田 忠雄	今井 忠延	柏木 淳一	小林 範之	下川 昇大
有吉 充	内川 義行	川名 太	小柳 倫太郎	杉山 行男
井 雄一郎	内田 一彦	北辻 政文	齋藤 邦人	鈴木 尚登
池浦 弘	宇波 耕一	工藤 庸介	坂田 賢	鈴木 正貴
石井 敏	大江 慎哉	工藤 亮治	佐藤 健	清野 修
一恩 英二	岡島 賢治	國安 法夫	重岡 徹	關 保昌
伊藤 健吾	小野島 英治	郷古 雅春	島田 沢彦	田頭 秀和
伊藤 良栄	小野寺 康浩	河野 善充	清水 穂高	武山 絵美

田中 良和	中村 公人	藤井 秀人	皆川 明子	谷藤 政弘
田村 孝浩	中村 貴彦	藤澤 和謙	南 格	矢挽 尚貴
丹治 肇	仲村 剛	細川 学範	峯岸 正人	山口 武彦
知花 武佳	仲村 渠将	保高 徹生	宮森 俊光	山本 忠男
塚本 康貴	新倉 徹也	堀田 昇克	宗岡 寿美	弓削 こずえ
中里 裕臣	西田 一也	堀 洋一郎	村上 一樹	吉迫 宏
中島 正裕	濱上 邦彦	前田 健次	村松 睦宏	吉田 修一郎
長野 峻介	林 直樹	牧山 正男	森 丈久	渡部 恵司
長野 宇規	林 春奈	松尾 芳雄	森 充広	
中村 和正	福田 信二	松島 健一	森井 俊広	

「農業農村工学会論文集」査読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会論文集は、昭和35年10月発行の「農業土木研究別冊」1号から数えて、平成28年2月には通算301号となりました。査読者各位のご支援・ご協力によって、つつがなく刊行できましたことを、深く感謝申し上げます。

農業農村工学会論文集企画・編集委員会では、査読者への感謝の意を表すべく、平成27年4月から平成28年3月までの一年間に投稿原稿を査読され、論文集に掲載されるにふさわしい

内容の維持にご協力いただきました方々のお名前（五十音順・敬称略）を記し、ご貢献の証しとさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し上げます。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(平成28年3月1日現在)

粟生田 忠雄	大西 健夫	古賀 潔	高木 強治	浪平 篤
浅野 勇	岡澤 宏	小林 晃	田頭 秀和	西田 和弘
安瀬地 一作	岡島 賢治	小林 範之	高瀬 恵次	西田 一也
有吉 充	緒方 英彦	小林 幹佳	瀧本 裕士	西村 伸一
安中 武幸	岡安 崇史	小峯 秀雄	竹内 潤一郎	西村 拓
飯田 俊彰	小川 茂男	近藤 文義	竹下 伸一	西山 竜朗
石井 将幸	奥野 倫太郎	近藤 美麻	武田 育郎	西脇 淳子
石神 暁郎	小田 晃	酒井 一人	竹村 武士	野津 厚
石黒 覚	柿野 亘	坂井 勝	田代 優秋	長谷川 拓哉
泉 完	角道 弘文	坂田 賢	多田 明夫	八丁 信正
伊藤 健吾	加藤 亮	佐藤 周之	谷 宏	服部 俊宏
伊藤 健二	亀山 幸司	佐藤 政良	谷口 智之	花山 奨
伊藤 良栄	冠 秀昭	澤田 豊	千葉 克己	濱 武英
稲垣 仁根	北川 巖	重岡 徹	長 裕幸	濱上 邦彦
井上 敬資	北島 明	凌 祥之	塚本 康貴	浜口 俊雄
猪迫 耕二	城所 隆	柴田 俊文	友正 達美	林田 洋一
岩田 幸良	木原 康孝	清水 克之	中 達雄	原口 暢朗
岩間 憲治	木全 卓	珠玖 隆行	中桐 貴生	治多 伸介
上野 和広	木村 匡臣	正田 大輔	長坂 貞郎	兵頭 正浩
宇波 耕一	桐 博英	菅原 喜久男	中田 達	平 瑞樹
江口 定夫	工藤 庸介	鈴木 克拓	中村 和正	廣瀬 裕一
遠藤 明	久保 成隆	鈴木 純	中村 公人	福田 信二
遠藤 和子	久米 崇	鈴木 哲也	中村 好男	福本 昌人
大澤 和敏	黒田 久雄	鈴木 正貴	中矢 哲郎	藤川 智紀
大土井 克明	郷古 雅春	周藤 将司	長束 勇	藤澤 和謙

藤田 信夫	松島 健一	森 洋	山本 清仁	若杉 晃介
藤原 正幸	松本 健作	森 充広	山本 忠男	渡邊 裕純
藤森 新作	満尾 世志人	森井 俊広	弓削 こずえ	渡部 恵司
藤山 宗	皆川 明子	森本 英嗣	吉川 夏樹	
堀 俊和	宮本 輝仁	諸泉 利嗣	吉田 修一郎	
前田 敏也	宗岡 寿美	山路 永司	吉田 貢士	
牧山 正男	望月 秀俊	山下 正	吉永 育生	

## 平成 28 年度からの論文集冊子体の年間発行回数変更に伴う「投稿の手引き」の改定について（再）

論文集企画・編集委員会では、冊子体の年間発行回数について、平成 26 年度に実施したアンケート結果、平成 27 年度の投稿数、平成 27 年度の収支等より慎重に審議した結果、平成 28 年度からの発行回数および発行時期を下記のとおり変更します。また、これらのほか査読判定の区分等も加えて「投稿の手引き」の改定案を作成し、第 239 回理事会（平成 27 年 12 月 15 日開催）での審議を経て、平成 28 年 4 月 1 日より適用します。

### 【冊子体の発行】

- 発行回数は、年間 2 回とします。
- 発行時期は、6 月末（Vol.〇〇 No.1）と 12 月末（Vol.〇〇 No.2）です。ただし、編集作業の都合上、実際の発行時期は約 1 カ月後となります。  
なお、平成 28 年発行分（Vol.84）については、2 月発行を Vol.84 No.1 とし、6 月発行を Vol.84 No.2、12 月発行を Vol.84 No.3 とする年間 3 回とします。
- 6 月発行分については、1 月～6 月に J-STAGE に掲載したものを掲載し、12 月発行分については、7 月～12 月に J-STAGE に掲載したものを掲載します。

ただし、平成 28 年発行分（Vol.84）については、No.1 は平成 28 年 1 月～2 月、No.2 は 3 月～6 月、No.3 は 7 月～12 月に J-STAGE に掲載したものを掲載します。

- 購読料については現状のまま変更しません。

### 【投稿の手引きの改定部分】

#### 論文集「投稿の手引き」の一部改定 要旨

箇所	現行	改訂後
7.4 判定		「Z」 体裁不備
11. 掲載された研究論文等のオープンアクセス	審査が終了したすべての研究論文等を随時 JST…全文掲載する。	審査が終了し、掲載可能なすべての研究論文等を 1 カ月以内に逐次 JST…全文掲載する。
12. 冊子体の作成	年間 6 回作成する。	年間 2 回作成する（ただし、平成 28 年発行の第 84 巻については 3 回作成する）。

なお、論文集個人購読者には、J-STAGE に新規掲載するごとにメールでその内容を連絡しております。事務局にメールアドレスを登録していない方はぜひご登録下さい。

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

### 2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 4 月号掲載の問題は 5 月末日が解答期限）

### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 29 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 29 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連続と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで、それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 85 巻（平成 29 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 平成 28 年 6 月 30 日

夏季 平成 28 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 85 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 29 年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」を熟読の上、ご投稿下さい。

## 学会誌 84 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
84 巻 5 号	農業土木での環境配慮はなぜか難しい (仮)	公募終了
6 号	東日本大震災から 5 年 (仮)	公募なし
7 号	大会特集号 (東北支部) (仮)	公募なし
8 号	農作業安生と土地改良 (仮)	公募終了
9 号	圃場モニタリングのためのリモートセンシング技術の最前線 (仮)	5 月 16 日
10 号	新たな土地改良長期計画を考える (仮)	公募なし
11 号	土地改良区の運営と課題 (仮)	7 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

## 84 巻 9 号テーマ「圃場モニタリングのためのリモートセンシング技術の最前線」(仮)

リモートセンシングは、その広域性・非破壊性・周期性・準リアルタイム性を特徴としたモニタリングの可能性により、農作物の生育状況や品質の広域把握への期待が持たれてきました。しかし、これまでの LANDSAT 衛星画像などのレベルでは、北海道は例外として、日本国内における圃場レベルでのモニタリングは困難でした。2000 年代に入り IKONOS などの高解像度衛星が登場しましたが、その価格・撮影頻度により、当初利用は研究レベルのものに限られてきました。2010 年代に入り、RapidEye、Sentinel (5~10m 地上分解能, 5 日撮影周期) などの衛星の登場、加えてそのほかの既存高解像度衛星

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4  
(公社) 農業農村工学会  
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて  
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494  
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

との複合により、圃場レベルでも詳細な衛星モニタリングが可能となってきています。加えて近年、測量分野において UAV (ドローン) の利用・普及が進んでいますが、その高性能化・安価化により、今後農業分野での利用の促進が期待されます。

本小特集では、このような現状を踏まえ、特に農業従事者への利用普及を視野に入れた、圃場レベルでの広域モニタリング、たとえば作物生育ステージごとの農作物モニタリングや農地環境把握に関わるリモートセンシング技術の最前線と実利用への取組みについての報文を広く募集します。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と

## 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが 1.151 (2015 年版) と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界 14 カ国から Editor (23 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

## 編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)  
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 23 名
- ・ Editing Board 26 名

- **Chief Management Editor**  
**Dr. Jin-Yong CHOI**  
 Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul  
 National University, Korea
  - **Managing Editors**  
**Dr. Yoshiyuki SHINOBI**  
 The Graduate School of Bioresource and Bioenviron-  
 mental Sciences, Kyushu University, Japan
  - Dr. Haruhiko HORINO**  
 Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture  
 University, Japan
  - Dr. Kazunari FUKUMURA**  
 Department of Agricultural Environmental Engineering,  
 Utsunomiya University, Japan
  - Dr. Yu-Pin LIN**  
 Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
 National Taiwan University, Rep. of China
  - Dr. Ming-Daw SU**  
 Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
 National Taiwan University, Rep. of China
- 編集事務局 (2015年1月から2017年12月まで) :**
- **Professor Dr. Jin-Yong CHOI**  
 Deputy Director General, Institute of Green-Bio

Science and Technology  
 Rural Water and Information Engineering Lab.  
 Rural Systems Engineering Program, College of  
 Agriculture and Life Sciences, Seoul National  
 University  
 1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742  
 TEL : +82-2-880-4583 FAX : +82-2-873-2087  
 E-mail : iamchoi@snu.ac.kr

**投稿先 :** オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になり  
 ます。

**投稿資格 :** 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者である  
 こと。

**投稿要領等 :** <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載してい  
 ます。

**発行スケジュール :** 年4回 (オンラインジャーナル)

**購読料 :** 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず  
 農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度  
 からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

**申込先 :** 農業農村工学会事務局

## 第 73 回京都支部研究発表会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



### 1. 研究発表会

日時 平成 28 年 11 月 16 日 (水) 10 : 00 ~ 17 : 00  
 場所 大阪リバーサイドホテル  
 〒534-0027 大阪市都島区中野町 5-12-30  
 TEL : 06-6928-3251 FAX : 06-6928-3260

### 2. 情報交換会

日時 平成 28 年 11 月 16 日 (水) 18 : 00 ~ 20 : 00

### 3. 現地研修会

日時 平成 28 年 11 月 17 日 (木) 9 : 00 ~ 16 : 00

### 4. 研究発表申込み

研究発表者は投稿原稿に先立ち、6 月末日までに、以下の情  
 報を簡条書きにしたメールを下記の発表申込先 (京都大学・藤  
 澤) にご送付下さい (件名を「発表申込み」として下さい)。①  
 表題 (仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所  
 属、年齢、④希望発表部門 (水理、水文・気象、土壌物理、土  
 質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、  
 農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・  
 その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。

今年度から発表者要件は「発表者は学会員に限らない。ただ

し、連名者に少なくとも 1 名は学会員が含まれること」となっ  
 ております。なお、投稿原稿に関する詳細な要領は 6 月号を参  
 照して下さい。

**5. 参加費** 会 員 : 3,000 円

非会員 : 4,500 円

### 6. 発表申込先

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
 京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻 藤澤和謙  
 E-mail : fujik@kais.kyoto-u.ac.jp  
 TEL : 075-753-6152 FAX : 075-753-6346

### 7. 申込期限

- (1) 発表申込み 平成 28 年 6 月末日
- (2) 原稿締切 平成 28 年 7 月末日
- (3) 参加申込み 平成 28 年 8 月末日

### 8. 問合せ先

大阪府環境農林水産部農政室整備課  
 計画指導グループ 高橋、深江  
 E-mail : TakahashiKoj@mbox.pref.osaka.lg.jp  
 KuharaT@mbox.pref.osaka.lg.jp  
 TEL : 06-6210-9600 FAX : 06-6210-9599

## 平成28年度九州沖縄支部大会の開催について (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



## 1. 期日および内容

- (1) 講演会：  
平成28年10月20日(木)、21日(金) (予定)  
オーラルセッション・ポスターセッション
- (2) 講習会：  
平成28年10月20日(木) (予定)  
設計基準書等の解説
- (3) シンポジウム：  
平成28年10月21日(金) (予定)  
テーマ未定
- (4) 現地見学会：  
平成28年10月21日(金) (予定)

未定

## 2. 会場

ジェイドガーデンパレス  
〒890-0055 鹿児島県鹿児島市上荒田町19-1

## 3. プログラム, 申込方法等

第2報にて詳細をお知らせします。  
全国各地から多数のご参加をお待ちしております。

## 4. 問合せ先

鹿児島県農政部農地保全課技術管理係 小野島  
TEL: 099-286-3243 FAX: 098-286-5603  
E-mail: k-seibi@pref.kagoshima.lg.jp  
〒890-8577 鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1

## 第14回岩の力学国内シンポジウム: JSRM2017の開催について

岩の力学国内シンポジウムは、1964年以来、3~4年に1度、岩の力学連合会と組織4学会によって開催されています。今回は、2017年1月10日から11日に神戸大学・百年記念館にて研究発表会を、1月12日に見学会を行うことを予定しております。また、第3回岩の力学若手研究者会議も併せて開催する予定です。

このたびのシンポジウムでは、岩の力学に関連する環境、エネルギー、資源、防災、インフラなどの最先端研究の情報交換を行うとともに、人類が抱えている長期的な課題に対しても焦点を当て、それらの課題にどのように立ち向かい、岩の力学のフロンティアを切り開いていけるのかについて議論・情報交換する場にしたいと考えております。

岩の工学に関連する講演とともに、地球科学や惑星科学、宇宙科学など、幅広い学問分野からの講演の申込みを受け付けております。また、国内はもちろんのこと、海外の研究者や学生にもご参加いただき、今後の研究・技術の更なる革新につながるとともに、参加者間の交流を深められるような企画を開催できればと考えております。どうか多数の皆様のご講演応募とご参加をお願いいたします。

1. 主催 岩の力学連合会  
共催 日本材料学会(幹事学会)、地盤工学会、資源・素材学会、土木学会  
協賛(予定) 農業農村工学会ほか12学協会
2. 開催日 平成29年1月10日(火)~12日(木)

## 3. 会場 神戸大学百年記念館

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

## 4. テーマ 人類の未来を支えるフロンティア研究と岩の力学

## 5. プログラム

- 1日目: シンポジウム(特別講演, 一般セッション), 交流会  
2日目: シンポジウム(特別講演, 一般セッション)  
3日目: 見学会(大型放射光施設・SPring-8の見学を予定)

## 6. 講演募集

岩の力学および岩の力学・工学分野における特色ある研究、提案、技術開発、事例報告等に関して幅広く受け付けます。講演募集の詳細は公式サイト(<http://rock.jsms.jp/jsrm2017/>)をご覧ください。

## 7. スケジュール(予定)

- 概要締切 平成28年5月15日(日)  
採否通知 平成28年6月1日(水)  
講演原稿提出期限 平成28年7月31日(日)  
最終原稿提出期限 平成28年9月15日(木)

## 8. 問合せ先

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41  
((一社)資源・素材学会内)  
(一社)岩の力学連合会事務局 富田明日香  
E-mail: jsrm2017@rocknet-japan.org  
TEL: 03-6804-2757 FAX: 03-3403-1776